

佐野短期大学シラバス2014

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
栄養学実習 Practice of Nutrition		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	実験実習	選択	(栄養士資格必修)	栄養士養成課程限定
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
栄養学、食品学、栄養指導論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
栄養士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小柳津 周 ・ 高木 道代	福祉棟2階, 3階研究室	火曜日・水曜日の講義時間外の時間		授業中に指示します
授業の概要				
栄養学実習は実験分野と実習分野で構成し、栄養学の基礎と応用まで幅広くとらえて実施する。実習では、栄養学各論や栄養指導論で学んだライフステージ別の栄養素摂取の特性を踏まえ、生活活動に見合った食物摂取の具体的・実践的方法と指導法を学ぶ。実験分野では各種栄養素の消化・吸収や食品成分間の反応や関与について化学的な視点で学ぶ。				
授業の目標				
①栄養素の健康への関与を説明できるようにする。 ②模擬献立においてその作成と実施の基礎を習得できるようにする。 ③栄養素の消化・吸収の基本原則を説明できるようにする。 ④ライフステージ別の栄養素摂取や生活活動の基本原則を理解し、実践的に活用・展開できるようにする。				
授業の方法				
基本的に実験・実習形式とするが、加えてレポートの提出(熟考したうえでの)を必須とする。				
学習の成果(学習成果)				
①栄養士として(栄養士資格を目指す学生として)献立の作用と実施の基本原則を具体的に実践することができる。 ②ライフステージ別の栄養素摂取や生活活動(生活習慣)を改善することができる。 ③栄養素の消化・吸収の原理や機能について具体的に解説することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス及び講義 (担当: 小柳津)			
第2回目	酵素の働きを考えるⅠ - 果実・野菜類を用いた酵素的褐変反応の観察 (担当: 小柳津)			
第3回目	酵素の働きを考えるⅡ - だ液アミラーゼによるデンプンの消化・吸収の過程を観察する (担当: 小柳津)			
第4回目	栄養成分と水質の関係を考える - 紅茶、日本茶及び旨味成分と水質(硬度)の関係を観察する (担当: 小柳津)			
第5回目	味覚及び味覚異常について考える - 五味を識別・判定し、健康と味覚異常について考える (担当: 小柳津)			
第6回目	食動作を考える - 通常食と制限食を試食・観察し、健康の重要性を考える (担当: 小柳津)			

第7回目	栄養素や食品の機能性について実習内容から討議、考察し、実習の成果について総括する (担当: 小柳津)		
第8回目	ガイダンス - 講義内容と講義方法の説明 -、乳児期の栄養Ⅰ(乳汁期) - 調乳実習 - (担当: 高木)		
第9回目	乳児期の栄養Ⅱ(離乳食) - 初期、中期、後期、完了期 - (担当: 高木)		
第10回目	幼児期の栄養Ⅰ - 幼児食から離乳食への展開 - (担当: 高木)		
第11回目	幼児期・老年期対象の間食Ⅰ - 献立、一口メモの作成 - (担当: 高木)		
第12回目	学童期の栄養 - アレルギー除去食 - (担当: 高木)		
第13回目	幼児期・老年期対象の間食Ⅱ - 調理、評価 - (担当: 高木)		
第14回目	老年期の栄養Ⅰ - 咀嚼のしやすさと調理 - (担当: 高木)		
第15回目	老年期の栄養Ⅱ - 嚥下困難食 - (担当: 高木)		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
	授業参加態度	20%	授業で使われる教材を準備して臨んでいる(S=90)。ディスカッションの場で自分の意見を述べる(S=80)。授業に集中し、必要なことはきちんとノートにとる。分かりにくい点があれば積極的に質問する。
	レポート	70%	S=90-100 文献や結果を参考に自分の意見を述べる、A=80-89 詳細に課題を探究している、B=70-79 C=60-69 内容構成がしっかりしており、課題の要件を十分に満たしている。
	調査報告書		
	小テスト		
	試験		
	発表内容(態度含む)		
	その他	10%	①共同で実施する課題に対し、献身的に参加する(S=90)②共同で実施する課題に対し、消極的な参加の場合には評価が低い
教科書と参考図書			
『ライフステージの栄養学』、『五訂食品成分表』、『調理のためのベーシックデータ』、独自のプリント・資料を配布			
履修上の留意点・ルール			
指導教員の指示・指導を厳守。講義の順番については変更の場合もある。提出レポート(資料等)については期限を厳守する。			